

# 仙台を皮切りにスタート

## 内発協、専門技術者講習・試験

内発協では、平成23年度最初の新規資格取得のための講習・試験と、資格の有効期限を更新するための更新講習を、さる8月30日(火)・31日(水)の2日間にわたり、宮城県仙台市のフォレスト仙台を会場に実施した。

3月11日の東日本大震災の影響により、一時は東北地区での開催は危ぶまれたが、無事実施の運びとなった。

仙台会場では今回、可搬形発電設備専門技術者の

資格取得のための講習・試験で54名が受験し、一方、資格の更新講習では自家用発電設備専門技術者で162名、可搬形発電設備専門技術者で109名が資格を更新するために受講した。今回分を含め11月中旬までに、講習・試験は全国10地区23回、更新講習は全国12地区34回それぞれ開催される予定である。



仙台会場

# 電力自由化の下、自家発電業界の環境整備に尽力

## 井上 力(いのうえ・つとむ)元会長が死去

内発協の第三代会長を務めた井上 力(いのうえ・つとむ)氏が8月22日、死去されました。享年85歳。既に通夜、告別式は近親者のみでしめやかに執り行われました。喪主は妻の瑛千子(さちこ)さん。

井上氏は大正15(1926)年1月生まれ。昭和23(1948)年3月、東京大学工学部電気工学科を卒業、同年4月、商工省(現・経済産業省)に入省。昭和39(1964)年4月、通商産業省(現・経済産業省)公益事業局原子力発電課長、昭和44(1969)年4月、科学技術庁原子力局動力炉開発課長、昭和48(1973)年7月、通商産業省資源エネルギー庁官房審議官を経て、昭和51(1976)年7月、同官房審議官を退官。その後、昭和52(1977)年2月、電源開発株式会社理事、昭和58(1983)年5月、財

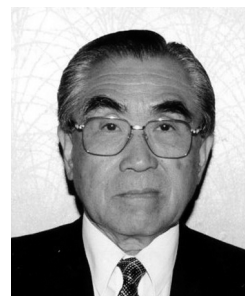
団法人発電設備技術検査協会理事長、平成2(1990)年8月、財団法人原子力発電技術機構理事長を歴任されました。

平成10(1998)年5月～平成15(2003)年5月、内発協理事・会長に就任。当時は電気事業法の大幅な改正に伴う電力自由化が進められた時期でした。また平成6(1994)年から卸電力を供給する発電事業者(IPP)の参入規制の緩和、平成12(2000)年3月から段階的に小売り自由化も進められ、その後、平成17(2005)年4月から契約電力50kW以上の高圧需要家までが自由化対象範囲として拡大され、認められました。新たに創出された常用自家発電設備市場が拡大傾向を示し、多くの当会会員企業が従来の防災用・非常用市場から、新たな常用市場へと注力していった時期でもありました。

ある種先行き不透明な状況の中で、井上氏は冷静な眼で自家発電設備市場の望ましい将来像を見据えつつ、自家発電業界全体の発展につながるよう事業環境整備に多大な尽力を果たされました。

一方、井上氏は、電力行政における永年に及ぶ功績が認められ、平成8(1996)年10月にフランス国政府より「レジオン・ドヌール勲章」を受章、平成13(2001)年5月に日本国政府より「勲三等瑞宝章」を受賞されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



(写真左)第28回通常総会であいさつする井上会長(当時、平成15年5月22日ホテルグランドパレス)

(写真右)新年賀詞交歓会で(平成23年1月13日ホテルグランドパレス)。左が井上元会長、右が吉田会長

